

札幌市環境局環境都市推進部 発表

Press Release



1. 水と森と空気から考える、みらい
2. エネルギーから考える、みらい
3. ごみと資源から考える、みらい
4. いのちから考える、みらい

発表日 2024年3月8日

「道内自治体との連携による再生エネルギー導入事業」において 本市の3清掃工場の余剰電力を地下鉄3路線へ供給開始します

札幌市では、2050年までに市内の温室効果ガス排出量を実質ゼロにする、いわゆる「ゼロカーボンシティ」を2020年に宣言するとともに、2021年3月には「札幌市気候変動対策行動計画」を策定したほか、2022年11月に国の「脱炭素先行地域」に選定されるなど、脱炭素社会の実現に向けた取組を進めているところであります。

この脱炭素先行地域の取組の一つとして、道内にて発電された再生可能エネルギー電力をその地元で有効活用したうえで、その余剰分を札幌市内で活用するなど、エネルギーの地産地消を進める「道内自治体との連携による再生エネルギー導入事業（以下「道内連携事業」という。）」を実施しており、2024年2月14日に事業調整役（予定者）であった北海道電力株式会社（以下「北電」という。）と連携協定の締結を行っております。

当該事業の一環として、2024年4月1日より本市の3清掃工場で発電された電力の余剰分（今までは売電されていた電力）を地下鉄3路線へ供給し、二酸化炭素排出量を削減します。

3清掃工場の余剰電力を地下鉄3路線へ供給する取組みの概要

【規模】

- ・3清掃工場の余剰電力量は約8,500万kWh/年。
- ・地下鉄3路線の消費電力量は約1億2,000万kWh/年であり、約70%（地下鉄2路線相当分）がゼロカーボン化される。

【仕組み】

- ・余剰電力総量を北電へ売電し、そのうち余剰電力が発電されている時間帯と、地下鉄3路線の稼働している時間帯が一致する約7,000万kWh/年においては、清掃工場由来の電力と環境価値を地下鉄3路線へ供給する。
- ・地下鉄3路線が稼働していない時間帯に発電される余剰電力は、約1,500万kWh/年あるが、その余剰電力は電力と環境価値を切り離し、環境価値だけを北電の電源構成の電力に付与して地下鉄3路線へ供給する。

【本取組みについて】

- ・地下鉄へ供給する地産地消の本取組みは、日本で初の試みであり、運輸部門（地下鉄・市電など）へ地産地消する規模としては、日本最大である。

【イメージ図】



【3清掃工場】



【北海道電力株式会社】



【地下鉄3路線】

※ : 清掃工場の余剰電力 : 清掃工場の環境価値 : 北電の電源構成の電力

札幌市環境局環境都市推進部 発表

Press Release

○ 未来を想う
Think Green
環境首都・札幌

1. 水と森と空気から考える、未来
2. エネルギーから考える、未来
3. ごみと資源から考える、未来
4. いのちから考える、未来

供給開始日

2024 年 4 月 1 日～

二酸化炭素削減効果

年間 CO₂ 約 45,000 トン削減（一般家庭約 10,000 世帯分相当）

お問い合わせ

本件につきましては、以下担当までお問い合わせください。

〒060-8611 札幌市中央区北 1 条西 2 丁目
札幌市環境局環境都市推進部環境エネルギー課 佐藤、稲辺
TEL 011-211-2872 FAX 011-218-5108